

❖ 目次 ❖

はじめに……………003

第一章 故郷・辺境・植民地——『終りし道の標へに』論——013

- 一 ノスタルジアを書くこと……………013
- 二 二つの過去……………019
- 三 粘土塀の故郷……………024
- 四 故郷の二元化への変更……………030

第二章 戦中から戦後へ——「名もなき夜のために」論——039

- 一 リルケの影響……………039
- 二 『マルテの手記』の受容……………044
- 三 〈転身〉から〈変身〉へ……………052

第三章 戦後表象としてのメタモルフオーゼ——『壁』論——061

- 一 コミュニズムへの接近……………061
- 二 「デンドロカカリヤ」……………065
- 三 「緑化」をめぐる……………070
- 四 「S・カルマ氏の犯罪」……………074
- 五 〈父殺し〉への欲望……………080

第四章 国民文学とアメリカの表象——「闖入者」論——089

- 一 闖入者としての〈アメリカ〉……………089
- 二 形成されていない〈主体〉……………096
- 三 国民文学論争をめぐる……………101
- 四 安部公房の「国民文学」に関する言説……………109

第五章 ルポルターージュからドキュメンタリーへ——記録文学運動への志向——117

- 一 一九五〇年代記録文学運動のルート……………117
- 二 記録文学運動の争点……………121

- 三 「現在の会」とルポルタージュ論……………128
- 四 「記録芸術の会」とドキュメンタリー論……………136

第六章 東欧から見た日本——『東欧に行く』論……………147

- 一 旅行とその記述……………147
- 二 旅行記をめぐる波紋……………152
- 三 一九六〇年代へ向かって……………158

第七章 反転する引揚者の物語——『けもたちは故郷をめざす』論……………161

- 一 体験記と小説……………161
- 二 他民族体験としての引揚げ……………166
- 三 「捨てられた者」の心情……………170
- 四 故郷へのノスタルジア……………174
- 五 不在としての故郷……………178

第八章 〈戦後〉的パラダイムの終焉——『砂の女』論……………183

- 一 一九六〇年安保闘争と知識人の分極化……………183
- 二 〈戦後文学〉の評価をめぐる……………192

- 三 「愛郷精神」の拒絶としての失踪……………199
- 四 流動する〈家〉……………205
- 五 「モザイク」としての世界……………208

補論 クレオールクレオールの夢……………217

- 一 クレオールへの関心……………217
- 二 エスペラント（国際共通語）の夢……………224
- 三 〈協和〉の夢と現実……………228

おわりに……………240

あとがき……………243

参考文献……………246